

## 第2学年5組 国語科学習指導案

1 単元名 じゅんじょをかんがえてせつ明しよう「二年一組、はつ明じむしょ」

### 2 目標

- 身近な道具から考えた発明品の紹介をするために、内容のまとまりや配置を意識して文章を書こうとする。 (国語への関心・意欲・態度)
- メモを基に、順序を整理し、簡単な構成を考えて「発明品紹介カード」を書くことができる。 (書くこと)
- 主語と述語とを照応させて文を書くことができる。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

### 3 指導に当たって

#### (1) 児童観

本学級の児童の実態調査（平成24年6月29日実施，第2学年5組29人）では、「見たり聞いたりして感じたことを書こう。」という課題で書かせたところ，経験したことから感じたことを書くことは，全員ができていた。しかし，事柄の順序に沿って整理し，内容のまとまりごとに文章を書けた児童は7人であった。この結果から，書く事柄の順序で整理せずに，思いついた順に文を書いてしまう児童が半数を超えることが分かった。児童が事柄の順序に沿いながら，文と文との続き方を考えて，内容のまとまりで文をまとめ，簡単な構成を考えて文章を書けるようにすることが課題である。

#### (2) 教材観

本学習教材「二年一組、はつ明じむしょ」では，身近な道具や自分の発明品について，文章で紹介する活動を通して，書くことを整理し，順序を考えて書くことをねらいとしている。取材した情報の中から大事なことをメモに書き，そのメモを基に文を考え，文章全体を書く過程で，情報を広げたり考えを深めたりすることができる。これらの学習を通して，項目ごとに文を書き，内容のまとまりを整理して文章を書く能力が育つと考える。

#### (3) 指導観

本単元では，順序を整理して，「始め－中－終わり」の構成を考えて書くために，発明品を友だちに紹介する文章を書く活動を展開する。まず，生活の中で使う身近な道具から発明品を考え，短冊状のメモに整理して書かせる。次に，例文を提示し，並べ替えを考えることで，「内容のまとまり」と「始め－中－終わり」の配置を考えられるようにする。そして，短冊状の「発明メモ」を「始め」，「中」，「終わり」で色分けしたシートに，事柄の順序を考えて貼っていく。その「発明メモ」を基に下書きをし，「発明品紹介カード」に清書する。最後に，学級で紹介し合うことで，分かりやすい文章になっているかを確認する。これらの活動を通して順序を整理し，簡単な構成を考えて文章を書く能力を身に付けさせることができると考える。

4 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	ウ 書く能力	オ 言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な道具から考えた発明品の紹介をするために、内容のまとめや配置を意識して文章を書こうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>メモを基に、順序を整理し、簡単な構成を考えて「発明品紹介カード」を書いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主語と述語とを照応させて文を書いている。</li> </ul>

5 授業の実践

ア 単元の指導計画

- (ア) 単元名 じゅんじょをかんがえてせつ明しよう  
「二年一組、はつ明じむしょ」

(イ) 指導計画 (11時間扱い)

次	時	学習活動・内容	指導上の留意点・評価規準
一	1	1 教師の「発明品紹介カード」を紹介し、カード作りに興味を持つ。 2 本時の学習課題を知る。 はつ明ひんをしようかいする学しゅうの計画を立てよう。 3 単元全体の学習の見直しを持つ。	○教師の考えた「発明品紹介カード」の拡大コピーを黒板に掲示し、活動に興味を持てるようにする。 ○単元全体の学習活動が見通せるようにする。 ㊦教師が紹介した「発明品紹介カード」を見て、興味をもって質問している。(観察)
	2	1 本時の学習課題を知る。 はつ明ひんをかんがえるためのアイデアをあつめよう。 2 身近な道具にはどんなものがあるかを考えて、発表する。 3 いくつかの道具を選び、「道具調べメモ」に言葉や絵を書く。	○自分が発明品を考えるのに役に立ちそうな道具を調べさせ、児童から多くの意見が出るようにする。 ○どんな役割の道具かを考えて、くわしく書くことで具体的にメモできるようにする。 ○思い付かない児童には友だちの発表したものを参考にするように伝える。 ㊦身の回りの道具の「名前」、「使うとき」、「形」、「使い方」についてメモに書いている。(ワークシート)
二	3 4	1 本時の学習課題を知る。 じ分のはつ明ひんのとく長をメモにしよう。 2 「道具調べメモ」をもとに発明品を考えて、「発明メモ」を書く。 3 どんな発明品かをメモに書く。	○発明品の数は一つに限定せず、複数考えさせることで、書く意欲につながるようにする。 ○発明品の使い方や工夫したところが分かるように、ていねいに書くように伝える。 ㊦身の回りの道具を基に、発明品を考えてメモを書いている。(ワークシート)
	5	1 本時の学習課題を知る。 はつ明ひんのとく長メモを文に書いてみよう。 2 「発明メモ」を基に、一枚40字の白短冊の原稿に一文ずつ書く。 3 誤字脱字がないか、読み直しをして、間違いがあれば訂正する。	○短冊カードに書くのは一文ずつで、それ以上にならないように気を付けさせる。 ㊦説明するときの言葉や紹介するときの言葉に気を付けて、つながりのよい文章を書いている。(ワークシート) ㊦道具や発明品の使い方や工夫がよく伝わるように文章を書いている。(ワークシート)
	6	1 本時の学習課題を知る。 はつ明ひんのとく長をなかまわけしよう。 2 「自己紹介」と「発明品紹介」の例文で、「始め」と「終わり」に入る文を選ぶ。 3 同じ例文で、内容のまとまりごとに文の仲間分けをする。 4 文の並べ替えを考え、「始め—中—終わり」の構成を考える。	○「始め」と「終わり」で、内容のまとまりの順序を考えさせる。 ○「自己紹介文」や「発明品紹介文」の例文で、キーワードに着目して、仲間分けの仕方が分かるようにする。 ○「自己紹介文」の並べ替えて「順序」を意識させた後に、「発明品紹介文」の並べ替えを行い、「始め—中—終わり」の構成を考えるようにする。 ㊦事柄の順序を考え、簡単な構成を捉えている。(観察・ワークシート)
	7	1 本時の学習課題を知る。 じゅんじよをかんがえて「はじめ—中—おわり」をかんがえよう。 2 「始め—中—終わり」の構成に発明メモを分けて、内容のまとまりを作る。 3 いくつかの事例を出し、どの順序が分かりやすいのかペアや全体で話し合う。 4 分かりやすい文章にするために、「内容のまとまり」と「始め—中—終わり」の構成が大切であることを確認する。	○「並べ替え」で考えた順序を、自分の「紹介文」に当てはめて考えるように伝える。 ○「使い方」や「工夫したところ」や「おすすめの言葉」は、混乱しやすいので、どの文はどの項目か、ペアや全体で話し合い、仲間分けができるようにする。 ○意味が通じるだけでなく、どの順序が分かりやすいのか考えるようにする。 ㊦発明品の紹介を事柄に分けて、内容のまとまりで書いている。(観察・ワークシート)
	8 9	1 本時の学習課題を知る。 下書きをしよう。 2 「始め—中—終わり」でまとめた短冊カードのメモを基に、下書きをする。 3 下書きしたものを読み返し、間違いや修正がないかを確認する。	○段落で改行する時に、書き出しに気を付けて写すように伝える。 ○内容のまとまりでは一文ずつ改行せず、続けて段落で書くように伝える。 ○主語と述語がつながるように、読み返しながらかくようにする。 ㊦主語と述語とを照応させて、つながりのよい文章を書いている。(ワークシート)
	10	1 本時の学習課題を知る。 「はつ明ひんしようかいカード」をかんせいさせよう。 2 短冊カードのメモを基に、「発明品紹介カード」を清書する。 3 誤字脱字がないかを確認する。	○大きく見やすい文字で書くように伝える。 ○誤字脱字や書き間違いがないか、読み直しを意識するように伝える。 ㊦書いた文章を読み返し、間違いがないかどうか確かめている。(観察・ワークシート)
	三	11	1 本時の学習課題を知る。 友だちのよいところを見つけてかんそうをつたえよう。 2 友だちの紹介文のよいところを見つけて感想表に記入する。 3 感想表に書いたことを発表し、分かりやすい文章の書き方についてまとめる。

イ 本時の授業

(ア) 本時の目標  
 文の並べ替えや内容のまとまりを考慮することを通して、事柄の順序を整理し、簡単な構成を考えて文章を書くことができる。

(イ) 準備・資料  
 「始め—中—終わり」の掲示物、「名前」、「使うとき」、「形」、「使い方」、「工夫したところ」、「おすすめの言葉」の各項目ごとの掲示物、発明メモシート、実物投影機

(ウ) 展開

配時	学 習 活 動	形態	指導上の留意点・評価						
3	1 本時の学習課題を知る。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                     じゅんじょをかんがえて、「はじめ—中—おわり」をかんがえよう。                 </div>	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時までの学習を振り返り、本時では、分かりやすい文章にするために、「発明メモ」の短冊カードを分類し、仲間分けすることを確認する。</li> <li>本時では、自分の短冊カードを並べ替えて、分かりやすい文章になるように順序を考慮することを確認する。</li> </ul>						
15	2 前時で仲間分けした短冊カードを、「始め—中—終わり」の構成に当てはまるように考え、内容のまとまりごとに発明メモシートに貼る。 (1) 「始め」と「終わり」にどの文を入れるか考える。  (2) 「中」に何が入るか考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>「使うとき」</li> <li>「形」</li> <li>「使い方」</li> <li>「工夫したところ」</li> </ul>	個人ペア一斉  個人ペア一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>復習をかねて、「始め」には発明品の「名前」、「終わり」には「おすすめの言葉」が入ることを確認する。</li> <li>ペアで確認しながら、「始め」には「名前」、「終わり」には「おすすめの言葉」が入ることを確認する。</li> <li>内容のまとまりを考慮して書かせる。</li> <li>短冊カードを「使うとき」、「形」、「使い方」、「工夫したところ」に分類し、仲間に分けるようにする。</li> <li>実物投影機で、児童の代表的な例を見ながら、文の仲間分けを考えるようにする。</li> <li>キーワードを手がかりに分類できるようにする。</li> </ul>						
20	3 事柄の順序について考える。 いくつかの事例を出し、どの順序が分かりやすいのかペアや全体で話し合う。  <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">始め</td> <td>・ 「名前」</td> </tr> <tr> <td>中</td> <td>・ 「使うとき」 ・ 「形」 ・ 「使い方」 ・ 「工夫したところ」</td> </tr> <tr> <td>終わり</td> <td>・ 「おすすめの言葉」</td> </tr> </table>	始め	・ 「名前」	中	・ 「使うとき」 ・ 「形」 ・ 「使い方」 ・ 「工夫したところ」	終わり	・ 「おすすめの言葉」	ペア一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>実物投影機で、代表的な例を見ながら、分かりやすい順序について比較して考えるようにする。</li> <li>どの順序でも意味は通じるが、分かりやすい順序について考え、確認できるようにする。</li> <li>簡単な内容から詳しい内容の順序になっていく方が、分かりやすい文章であることを、児童の作文の例や、準備した例文で、確認できるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                     文の並べ替えや内容のまとまりを考慮することを通して、事柄の順序を整理し、簡単な構成を考えて文章を書いている。(ワークシート)                 </div>
始め	・ 「名前」								
中	・ 「使うとき」 ・ 「形」 ・ 「使い方」 ・ 「工夫したところ」								
終わり	・ 「おすすめの言葉」								
7	4 分かりやすい文章にするために、「文のまとまり」を「始め—中—終わり」の構成にすると分かりやすい文章になることを確認する。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習を振り返るようにする。</li> <li>学習計画表に、本時の学習内容と自己評価を記入するようにする。</li> </ul>						